

早仕掛け定跡 <先手四間飛車>

(第1回は▲3六歩まで)

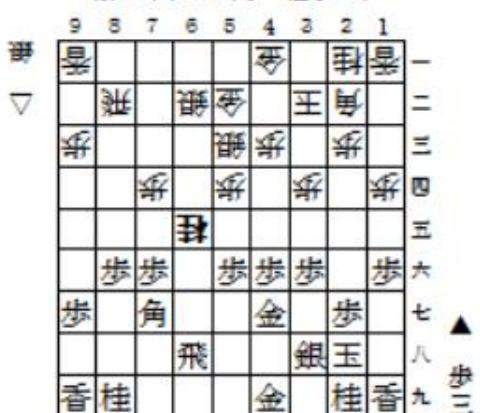


中行
中行

△ 8
△ 6
△ 6
△ 10
(第2回)

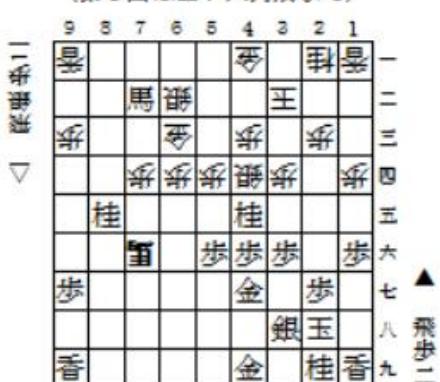
七七四一 巴六
七七四二 六八
七七四三 七三
(無)

(第2図は△同 桂まで)



卷之三

(第3回は△7六角成まで)



卷之三

- ① 山田定跡
- ② 鶩/宮定跡
- ③ 棒銀
- ④ 46 銀左(斜め棒銀)
- ⑤ 45 歩早仕掛け

45 歩早仕掛けの定跡です。45 歩ということは先手居飛車が基本になりますが、先手居飛車の時は早仕掛けは実現しにくいです。①、②で言ったように、後手四間飛車の時は 43 銀と上ると受けに1手足りないため最善で攻められると受けが利かなくなるため 32 銀型で保留することが多いからです。

居飛車側は相手のひだり銀や 56 歩を見て仕掛けを決めていきます。56 歩が突いていない状態で 64 歩と突くと、四間飛車側は受けが間に合わないため 56 銀～45 銀～34 銀と玉頭銀に変化してくる場合があるので、居飛車側はこの変化を避けるなら 56 歩を見てから 64 歩を突きます。

第1図が早仕掛けの基本図になります。後手は 42 金直とするかですが、早仕掛けの場合は高美濃囲いで玉が堅いため、42 金直よりも 37 桂の方が価値が高いのでこのまま攻めた方がいいです。四間飛車側は攻めてこなければ、37 桂～45 歩～26 歩～98 香とどんどん玉を堅く広くしていきます。

33 手目は基本的には同步かいいですが、46 歩、36 歩、47 金のどれかが足りない場合は同步だとすぐに悪くなるので同角と取ります。また、相手がエルモや金無双急戦の時はこちらの受けの体勢が間に合わない場合もあるのでその時も同角です。

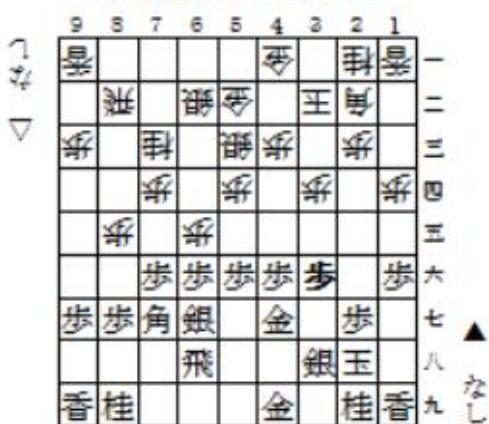
86 同角、66 歩、同銀、65 歩、71 銀、85 桂、88 銀、66 歩、71 桂、同桂、同銀みたいな変化になります。

第2図は 65 桂になります。71 角成もあるため次で紹介します。65 桂に対しては、居飛車の左金が 42 金型なら 22 角成、同玉として 26 桂～34 桂を狙います。41 金型の場合は玉頭が弱いため、65 飛として左桂を活用しながら 35 歩～34 歩と玉頭攻めも視野に入れます。

第3図からは 82 飛で攻め合い、居飛車は 76 馬かいい位置にいるので 88 飛や 89 飛で 49 金を狙っていく将棋になります。

個人的には 65 同桂の変化は 71 桂、65 飛の形が一瞬安定してるのでその間に攻められるので四間飛車も互角に指せる変化だと思います。次の 71 角成の方が飛車を攻められるので嫌です。

(第1回は▲3六歩まで)



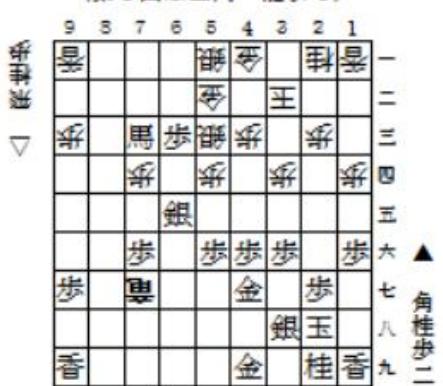
▲7六歩飛▲6八王▲5八王▲4八王▲3八王▲2八王▲1八王▲6七六王▲5六七六王▲4六七六王▲3六七六王

中華書局影印

△8 大歩
△6 大歩
△6 三歩
△7 七角成
(第2回)

卷之三

(第3回は△同 龍まで)



第2図は77角成の変化になります。

41手目は以前は55歩、同角を決めてから67飛と浮いていましたが、55角が73桂にヒモがついているので現在は単に67飛と浮くのがいいとされています。

44手目63同銀でも95角～73角成です。居飛車が駒組みの中で94歩と突いてきた場合は端歩は受けずに37桂など玉を堅くしていきます。早仕掛けの時は98香と上がる暇はありません。

第3図が一例です。居飛車の2枚飛車で攻められる前に金駒を1枚取り、受けに使えるようにします。

- ① 64桂、同銀、同馬
- ② 45桂、44銀、95角

みたいな流れになると思います。居飛車は少し攻められますが、それを受けた2枚飛車で高美濃囲いを攻めていきます。

早仕掛けに対しては45桂や95角がポイントになります。つまり、37桂を跳ねねていたら持ち駒保留で45桂と攻められるので居飛車側は右桂が37桂と跳ねる前に仕掛けないといけないです。居飛車急戦5つの中で唯一高美濃囲いに出来る定跡なので、居飛車側は高美濃囲い崩しが得意なら誘導できますし、苦手なら避けていきますが、2枚飛車で攻められるので四間飛車側も怖いです。

捌き合いになってお互いに持ち駒も多く、攻められるので、捌き合って攻め好きな人にはオススメです。

四間飛車はとにかく46歩、36歩、47金の形以外は速攻で負けるのでこの形は基本図です。相手がめるい手を指してきたら37桂～45歩～26歩と囲いを堅く広くしていくと作戦勝ちになります。ちなみに、26桂か46桂どちらかが常に打てる状態にしたほうがいいので、45歩～26歩の順番です。